

2 八都県市職員一斉定時退庁

- ・ 八都県市では、特に男性の子育て参加を促進するため、四都県内の企業・事業所及び各区市町村に対して定時退社、定時退庁に取り組んでいただくよう働きかけを行ってきた。
- ・ 各都県市は、率先実行のため、19年度に年1回、20年度から年2回、八都県市職員の一斉定時退庁を実施し、文書通知、会議、庁内放送を通じて緊急の業務等を除いて定時退庁を徹底した。一部の都県市では一斉消灯を実施し、その模様がメディアに取り上げられた。（テレビ埼玉 19、20年度、千葉テレビ 19年度、日本テレビ 19年度）また、20年度から各都県市の実施率を公表した。

①平成19年10月24日（水）

②平成20年8月27日（水）

※端数切り捨て

	対象職員数	定時退庁者数	残業者数
全体	94,864人	91,958人 (96.9%)	2,906人 (3.0%)
埼玉県	7,441人	7,383人 (99.2%)	58人 (0.7%)
千葉県	7,690人	7,525人 (97.8%)	165人 (2.1%)
東京都	35,578人	34,261人 (96.2%)	1,317人 (3.7%)
神奈川県	6,659人	6,570人 (98.6%)	89人 (1.3%)
横浜市	14,774人	14,143人 (95.7%)	631人 (4.2%)
川崎市	8,381人	8,189人 (97.7%)	192人 (2.2%)
千葉市	5,197人	5,010人 (96.4%)	187人 (3.5%)
さいたま市	9,144人	8,877人 (97.0%)	267人 (2.9%)

③平成20年11月5日（水）

※端数切り捨て

	対象職員数	定時退庁者数	残業者数
全体	94,772人	91,431人 (96.4%)	3,341人 (3.5%)
埼玉県	7,441人	7,313人 (98.2%)	128人 (1.7%)
千葉県	7,690人	7,624人 (99.1%)	66人 (0.8%)
東京都	35,423人	33,900人 (95.7%)	1,523人 (4.2%)
神奈川県	6,659人	6,499人 (97.5%)	160人 (2.4%)
横浜市	14,774人	14,041人 (95.0%)	733人 (4.9%)
川崎市	8,436人	8,234人 (97.6%)	202人 (2.3%)
千葉市	5,197人	5,046人 (97.0%)	151人 (2.9%)
さいたま市	9,152人	8,774人 (95.8%)	378人 (4.1%)

④平成21年8月26日(水)

※端数切り捨て

	対象職員数	定時退庁者数	残業者数
全体	102,293人	98,804人(96.5%)	3,489人(3.4%)
埼玉県	7,319人	7,266人(99.2%)	53人(0.7%)
千葉県	7,441人	7,365人(98.9%)	76人(1.0%)
東京都	33,615人	32,347人(96.2%)	1,268人(3.7%)
神奈川県	6,993人	6,917人(98.9%)	76人(1.0%)
横浜市	24,394人	23,437人(96.0%)	957人(3.9%)
川崎市	8,305人	7,889人(94.9%)	416人(5.0%)
千葉市	5,100人	4,836人(94.8%)	264人(5.1%)
さいたま市	9,126人	8,747人(95.8%)	379人(4.1%)

⑤平成21年11月4日(水)

※端数切り捨て

	対象職員数	定時退庁者数	残業者数
全体	101,815人	98,758人(96.9%)	3,057人(3.0%)
埼玉県	7,319人	7,278人(99.4%)	41人(0.5%)
千葉県	7,441人	7,372人(99.0%)	69人(0.9%)
東京都	33,567人	32,445人(96.6%)	1,122人(3.3%)
神奈川県	6,993人	6,768人(96.7%)	225人(3.2%)
横浜市	24,394人	23,600人(96.7%)	794人(3.2%)
川崎市	8,370人	8,132人(97.1%)	238人(2.8%)
千葉市	5,100人	4,858人(95.2%)	242人(4.7%)
さいたま市	9,123人	8,797人(96.4%)	326人(3.5%)

3 ワークライフバランス推進のアイデア等の募集

(1) ワークライフバランス一言宣言募集 (21年度)

- ・ ワークライフバランスの実現には一人一人の働く人が働き方(生き方)を自分で選択し実現していくことが大事である。そうした取組を広めていくため「あなたのワークライフバランス宣言を聞かせてください」と題して、各自の働き方・生き方を宣言する企画を実施した。

・ 募集期間	平成21年8月18日～11月30日
応募作品数	110件
・ 審査	渥美由喜氏((株)東レ経営研究所)を審査委員長、八都県市職員を構成員とする審査会にて決定した。審査のポイントは4点。 ①表現がシンプルで内容がわかりやすい ②ワークライフバランスの趣旨を踏まえている ③多くの人の共感が得られ、ワークライフバランスの普及啓発に活用することができる ④インパクト、目新しさ、おもしろさがあり、アピール力がある

最 優 秀 賞

○いらぬ仕事は仕分けて見直し、定時退社! (宮地 義之さん・東京都)

(受賞理由) 業務改善や効率化を進めて行こうという内容を「いらぬ仕事を仕分ける」と具体的な行動として簡潔に表している。「仕分け」という話題性のある言葉を用いており、アピール力がある。

優 秀 賞

○残業目標「昼までに!」年休目標「ひるまでに!」 (中島 良樹さん・千葉県)

(受賞理由) 残業も年休も計画的に、という内容を「昼までに!」「ひるまでに!」という言葉で表すことで、語呂合わせの面白さと訴えの力強さの両方を兼ね備えている。

○家庭で充電、仕事で放電、たまには友と夜間に蓄電 (吉川 礼子さん・埼玉県)

(受賞理由) 「家庭」「仕事」の他に「友達とのつきあい」を加えている点が、人間関係の希薄化が感じられる中で共感を覚える。「たまには・・・」以下が「良いライフを良いワークにつなげる」というワークライフバランスの趣旨を表すと共にユニークな宣言となっている。

○仕事は定時まで燃え尽きよう (依田 直輝さん・東京都)

(受賞理由) 限られた時間の中で、仕事の生産性を最大限に上げようという趣旨が、「燃え尽きよう」というインパクトある表現に現れている。

○子どもの寝顔じゃなくて、笑顔を見るためにうちに帰ろう (上村 佳子さん・東京都)

(受賞理由) 「寝顔じゃなくて笑顔」が目のつけどころが良く、子育て中の親から広く共感を得られると思われる。

○保育園、送り迎えは父・母交替で子どももわくわく! (大西 裕美さん・神奈川県)

(受賞理由) 父親の子育て参加を具体的な行動で提案する作品だが、「子どもわくわく!」と子どもの視点で前向きな楽しさを前面に出している点が優れている。

○親子一緒に早寝!早起き!朝ごはん! (真鍋 勝裕さん・東京都)

(受賞理由) 朝食など、良い生活リズムが良い仕事の基本だが、実際には出来ない例も多い中で、シンプルで響きの良い言葉で基本的な内容を訴えている。

表 彰 式

- ・ 表彰式は2月9日(火)15時15分から「ワークライフバランスフェスタ東京2010」会場(東京国際フォーラム)にて開催した。
プレゼンターとして審査委員長の渥美由喜氏が出席し、賞状及び副賞(四都県名産品)を授与した後、渥美審査委員長からコメントと、各受賞者からは受賞の感想をいただいた。

(渥美審査委員長)

- ・ 受賞者並びにご家族の皆様おめでとうございます。海外で「WLBなどを社会で進めて行く上で何が有効か」と聞くと「キャンペーンを通じて、WLBの重要性が伝わる、短くわかりやすいキャッチフレーズで伝えていくことが効果的だと思う」という答えが返ってくる。
今回の一言宣言の様な取組はとても大事だと思う。以前、「パパ、イヤと言わせない」だったかと思うが厚労省のキャンペーンがあった。私事だが、かつて息子と男の絆みたいなのが出来たと思ったら、ある時「パパ、イヤ」と言われ落ち込んだことがあった。みなさんの応募作品は、そうした日常生活の一風景が目浮かぶような宣言だと思う。
他にも最近のトピックに引っかけるなど、とても上手く、きっと後々まで思い返してご自身のWLBにもつながるものとなるだろう。

(宮地さん)

- ・ 最初は言葉遊びのつもりでやってみた。
言ったことはぜひ実現していきたい。

(中島さん)

- ・ 自分の職場はWLBの制度的なものは整っているが、もっと皆に周知したり、自分たちが活用することが大事。自分で意識して実行しようと思い、考えた。



(依田さん)

- ・ 自社は「くるみんマーク」を取得しており進んでいる方だと思うが、実際には難しい。
自分は単身赴任中だが、そうしたものが無い国になればとも思う。なお、担当の方から土曜日に連絡があったがお役所も率先実行していただきたい。(笑)

(上村さん)

- ・ 同僚や弟が、「いつも寝顔なんだよね」と少しさみしそうに話している。特に男性は帰りにくい状況がある。

(大西さん)

- ・ 私は看護師で3人の子がいる。交替は「代わりに」でなく「替わるがわる」という意味。
私は育休中だが、夫も育児部分休業を取得し、交替で送り迎えをしている。子どもも「今日はパパ」と聞くと喜んでいる。私が育休を取るとかえって夫は早く帰りにくい雰囲気もあるが、父親が子育てのために堂々と早く帰れる社会になってほしいと思う。

(真鍋さん)

- ・ たとえ定時退社しても夜に子どもと接する時間はわずかなので、朝も有効活用し、家族の時間を作っている。これからも家族で仲良くサポートし合っていきたい。

(2) ワークライフバランス実践アイデア募集 (19・20 年度)

- ・ 自分 (の職場) で出来ることから率先して実施していこう、という趣旨で、少しの工夫で誰もが実践できるワークライフバランスのアイデアを募集した。

・ 募集期間	<19>・平成 19 年 9 月 11 日～11 月 30 日	77 件
応募作品数	<20>・平成 20 年 8 月 19 日～12 月 12 日	74 件
・ 審査	渥美 由喜氏を委員長、八都県市職員を委員とする選考委員会にて、優秀賞を決定した。 審査では、①斬新性、②実現可能性、③楽しさ、④期待される効果、の 4 点を考慮した。	

20 年度最優秀賞

〇バランスの可視化を！

(小栗 知実さん・埼玉 県)

(応募者コメント) ワークライフバランスという堅いイメージがあったが、自分が仕事と家庭生活を両立したいと思っていた時にこの募集があり、自分と同じ世代に普及できるものがあると良いと思った。
ライフスタイルは周囲の人から言われたくらいでは変わらないので、自分で気づくようにグラフや一覧表などを使ったツールを作った。

20 年度優秀賞

〇父親が子どもと一緒に地域の少年スポーツクラブに参加する！

(三上 典子さん・埼玉 県)

(応募者コメント) 子どもと一緒に地域の少年スポーツクラブに参加することで、父親同士の地域での交流も増え、子どものチームメイトを知ることができ、父親の居場所もできる、子どもの成長する姿を知ることによって子育ても暮らしも楽しく充実する。

〇子どもから勉強を教えてもらおう！

(佐藤 佐恵子さん・東京 都)

(応募者コメント) 子どもが学校で勉強したことを、親が教科書を見ながら教えてもらう。子どもの関心事がわかる。子どもの事をもっと知りたくなって早く帰りたくなる。子どもも勉強が楽しくなる。

『少しの工夫で誰もがワークライフバランスを実践できるようなアイデア募集』

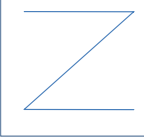
「ライフワークバランス」…これこそが私自身、仕事仕事の人間だったので真剣に考えました。そもそもライフスタイルって周囲の人から言われたくらいでは変わりません。自分自身で“気付かない”とダメだと思いません。そこで、主旨とはズレてしまうかもしれませんが、ツールを作ってはいかがでしょうか？

*希望サイズ: A5 or B5 (女性の手帳に挟めるように)

① (改めて)ワークライフバランスの説明

ワークライフバランスとは？

- ～とは？
- 生活を豊かに～

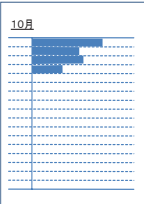


・どうして必要なか？
・自分は、どうなのか？
・職場はどうか？
etc
自分の環境を把握するきっかけを作れるような説明書を1枚でまとめる。

PDFで、①②③を各々、ダウンロードできるようにして、個人が意識するツールを配布。
↓
次に、家族・夫婦で②の“棒グラフコンテスト!!”などの実施。**バランスを意識**するようになる。
ex)「こんなにバランスが変わりました」etc
↓
家族のコミュニケーションも増える。お互いを解り合うきっかけにも。
将来の予定を考えるきっかけにもつながる。
夫婦だと、仕事とのバランスは収入とのバランスなので、出産時期を確認したり、またお互いの自己実現に向け、家事を分担したり…

② 実際の“あなた”

10月

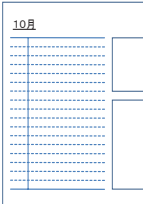


Point
自分の時間を可視化し、その中で仕事に有している時間を棒グラフにしてみる

バランスの可視化

【続編】他にもこんなシートがあったら…

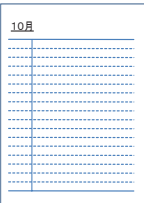
10月




④個人用のスケジュール
⑤ecoスケジュール
⑥主婦目録
etc

③ 今月の予定

10月



・今月はどうな月？
・家族行事は？
etc
②のバランスと予定は比例するはずですよ。
②と③を家族・夫婦で見せ合いながら、ワークライフバランスを考える。



○毎月休暇予定表で年休の計画取得を促進！ (阿部 将人さん・東京都)
(応募者コメント) 係毎に月末に来月の『毎月休暇予定表』を作成する。休暇が近づいたら上司・同僚が本人に休暇取得を促す。計画的な休暇取得が定着してきたら次は定時退社予定を実現させる。

○職場内で子どもの写真などのアルバムをつくる！ (羽中田 貴子さん・東京都)
(応募者コメント) 職場内で小さな子どもがいる社員全員から子どもの写真を提出し、アルバム等、職場内の人が閲覧できるようにする。いざというとき、同僚も「この子のためなら仕方ないか」と思うだろう。

19 年 度 最 優 秀 賞

○「バランスDAYフラッグ」で定時退社を促進！ (永嶋 英子さん・埼玉県)
(応募者コメント) 各部門ごとに、定時退社の日である「バランスDAY」を設定する。その日には、黄色いフラッグ「バランスDAYフラッグ」を机の上に表示し、定時退社と消灯を強力に推進する。

○職場で個人の家庭スケジュール台帳を作成して早期退社を実現！ (米澤 公さん・東京都)
(応募者コメント) 職場で、仕事の欄と家庭の欄を設定したスケジュール台帳を作成し、各自が記入する。毎朝、朝礼等で確認する。時間が近づいたら、本人だけでなく周囲からも退社を促す。

○孫が病気でも休める職場に！ (藤本 高志さん・神奈川県)
(応募者コメント) 一般的には子の看護に限られている看護休暇に孫を加えることで、親以外の祖父母世代も子育てに参加しやすくする。

○乳幼児健診は父親も一緒に行こう！ (清水 恭一さん・東京都)
(応募者コメント) 男性が家事・育児に参加する契機となるよう、6ヶ月健診、1歳6ヶ月健診、3歳児健診に父親も一緒に行く。

○子どもとの決まった遊びを定着させて早く帰る！ (菅原 英雄さん・千葉県)
(応募者コメント) 子どもとのコミュニケーションを十分に取り、寝る前の絵本の読み聞かせやルーチンの遊びを定着させる。遊べずに子どもが泣き寝入りしないよう「早く帰ろう」という意識になる。

表 彰 式

・ 20年度は平成21年2月18日(水)11:30から「ワークライフバランスフェスタ東京2009」会場(東京国際フォーラム)にて開催した。

19年度は平成20年2月14日(木)16:30から「官民連携子育て支援推進フォーラム」会場(ラフレさいたま)にて開催した。

<20年度表彰式>



<19年度表彰式>

